富士の民話 あれこれ

お茶ばあさん

「お茶ばあさん」は、観音菩薩の化身と言われ、せきに悩む人々が、お茶を供えてお祈りすると、たちまちせきが治ると言われています。

今回は、お茶ばあさんのお墓を祭っている福寿院(下横割)の横井はまさんからお話を伺いました。

▷お茶ばあさんのお墓。「咳癒院智空禅尼」と刻んであります。

今から約四百年もの昔、成安寺の逸道禅師というお坊さんは、ぜんそくが持病で隠居し、福寿院に住んでいました。ある日、せきに悩むおばあさんがやってきて、「おこもりして、お祈りしたい」と禅師にお願いしました。

おばあさんは、本堂にこもって御本尊にお茶をささげ、お香をたき、飲み食いもせず一心に祈り続けました。すると、どうでしょう。間もなく禅師のぜんそくも、おばあさんのせきも、すっかり治ってしまいました。

ところが、おばあさんはその晩、どこともなく消えてしまいました。禅師は、おばあさんは観音菩薩の化身に違いないと思い、それからの供養を怠りませんでした。

禅師が亡くなって百年余り過ぎたころ、横割の百姓、長右衛門に一人の姉がいました。この人がある日、重い病気にかかりました。そして意識がなくなった後、福寿院の住職のまくら元にあらわれ、「私は、逸道禅師のぜんそくを治したおばあさんの化身です。死んだ後は人々のせきを治します。どうか、私の好きなお茶を供えてください」と告げて、息を引き取りました。

丁寧な葬式を済ますと、どこからか「我は、世の人々のせきの病を救おうぞ」という声が聞こえてきました。その後、せきに悩む人が墓にお茶を供えてお祈りすると、せきがすっかり治るようになったということです。

以前は、清水や三島からお参りに来る人がいたほど、せきが治ると言われています。毎年八月七日は、お祭りなんですが、その日は、近所の人だけでなく、わざわざ柏原(元吉原)からお参りに来る人たちもいるんですよ。皆さんには、ぜんそくに効くと言われているお札を渡しています。

横井 はまさん(下横割)

こちら編集室

広報広聴課へ配属されて、はや4年。写真を覚え、取材をし、紙面づくりと文章書きに悩み、締め切りに追われる日々を送ってきましたが、3月いっぱいで編集室を去ることに。取材で出会った多くの方々、必死になって撮った写真の数々、広報コンクールで念願の入賞をしたカレンダーや写真など、自分が担当した冊子をめくるたびに、そのときの思い出が走馬灯のように浮かんできます。まだやりたいことはあるし、ここを去るのはつらいけど、新しい職場で新たな自分を発見しようと思います。また会える日まで。さようなら。

人口 232,781人
男 116,031人 女 116,750人
世帯 72,867世帯 (3月1日現在)
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
富士市永田町1-100 ☎51-0123

広報ふじは再生紙を使用しています